

## 第 2 回委員会議事要旨と指摘事項への対応について

- ・ 第 2 回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会  
議事要旨・・・1
- ・ 第 2 回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会  
指摘事項への対応方針・・・3

## 第2回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会 議事要旨

### 1. 体験的歴史学習基本構想に盛り込むべき内容について

- ・第1回委員会における議論及び「古墳壁画の保存活用に関する検討会」(文化庁設置)において<キトラ古墳壁画を保存管理する施設を公園内に設けることを基本としていくこと>が了解された点を踏まえ、体験的歴史学習基本構想に盛り込むべき内容について、事務局より説明を行った。

### 2. 地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会について

- ・地域と連携したイベントプログラムを考える懇談会について、事務局より説明を行った。

### 3. 委員からの主な意見

#### <学習内容・展開手法・プログラムについて>

- ・渡来人に関する取扱いは、研究の進み具合を踏まえ誤解を招かないような内容として欲しい。
- ・渡来系の文化に影響を受けた飛鳥文化とともに、それが日本各地へどう広まったのかという視点も重要である。
- ・渡来人がもたらしたものにより、国がどのように変わったのかなど、我が国の成り立ちについて学べる場となるとよい。
- ・世界遺産登録への後押しとなるような、国際性の視点を是非盛り込んでほしい。
- ・東アジアの人々が来訪し、自らのルーツが飛鳥に保存されていることを知ることができるような内容にしてほしい。
- ・学習内容が難しすぎるため、子供達が来ても理解できるようなものも必要ではないか。
- ・キトラ古墳壁画の公開時もそうであったが、飛鳥を訪れる人は短時間で帰る人が多い。来訪者によって混雑する箇所とそうでない箇所の差が激しいのが実態であると思われる。利用予測に即して使いやすさについて考えるべきである。
- ・プレオープンをして、実際に体験した方から、ご意見をいただき展示に反映できる仕組みを検討すべきではないか。
- ・本地区には、専門家も来訪すると思われ、新しい技術と新しい情報の発信がどんどんされるほうがよい。
- ・発掘調査現地説明会などには、遠方から宿泊して来訪する方もいるため、こうしたリピーターへの配慮もしてほしい。
- ・春と秋だけ多くの方が来訪するという印象が強いので、もう少し年間利用を検討することが必要ではないか。
- ・体験学習館では、東アジアの壁画の展示とともに、高松塚壁画館にある模写壁画の活用も検討することが可能ではないか。
- ・屋外体験では農地を保存するだけでなく、農具や古代衣装等の再現なども含め農法を保存するという視点に立って、公園内だからできるイベント等を仕掛けていくことも必要では

ないか。

- ・発掘をした上で整備、開園するのではなく、発掘過程自体も公園の中で示せるような工夫を検討してほしい。

- ・国営公園の他の4地区や公園外の施設等との関係を分かりやすく説明すべきである。

<人材育成及び関係団体との連携について>

- ・管理や案内には専門的な知識や総合力が必要であり、ボランティアの枠を超えて専門的な職として展開することが必要ではないか。
- ・一般の来訪者は飛鳥の歴史のことだけでなく周辺の食べ物などのことも知りたいと思われる。こうしたことへの対応を含め、どういう人材が必要なのかをイメージして検討していくことが必要ではないか。
- ・体験的歴史学習を展開するためにはエデュケーターの育成が肝要である。飛鳥に合ったエデュケーターの位置づけを検討することが必要である。
- ・市民を単にビジターとして捉えるのではなく、担い手・パートナーとして公園あるいは施設の管理に入っていくことが重要であり、この視点を強化することが必要ではないか。
- ・パートナーを支える機能が弱いのではないか。
- ・里地里山体験フィールドなどは開園前から住民とともに活動し、その結果を設計に反映するという構想や計画の中に盛り込むことが必要ではないか。
- ・住民参加による景観整備の実例では、「専門知識が無くてもよいか」と問われることもあるため、ボランティアのハードルを下げ、参加しやすくすることも大切である。
- ・公園が完成する前から連携に向けた体制づくりが必要である。
- ・これまでの国営公園との関わりを考慮し、飛鳥保存財団を重要視して取り上げてほしい。

<施設の設置・運営管理について>

- ・体験学習館は色々な機能を持たせるよりも博物館的な機能をメインとしたほうが良いのではないか。
- ・現段階で指定管理者制度で対応するかどうかを決めるのは困難であろうが、基本的にはいろいろな調整機関と連携を取りながら実施する仕組みづくりが必要ではないか。
- ・収益を得て運営し、仕事として村民に提供し地域の活性化につながるようにしないと長続きしないのではないか。
- ・地域産材の積極的利用など、建設・運営に村人が関わることができ、地域活性化につながるよう配慮してほしい。

<その他>

- ・「文化観光」が求められているが、全国にモデルがない状況である。飛鳥はモデルになるのにふさわしく、そのように検討してほしい。

第2回 国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会  
指摘事項への対応方針

項目	委員意見	対応方針
学習内容・展開手法・プログラムについて		
	渡来人に関する取扱いは、研究の進み具合を踏まえ誤解を招かないような内容として欲しい。(河上委員)	今後の計画・設計段階においても、文化財部局にもご意見を頂きながら、渡来人に関する研究成果に基づき、明確にわかっている部分と議論の余地のある部分を区分して、誤解を与えないような形で表現できるように努めます。
	渡来系の文化に影響を受けた飛鳥文化とともに、それが日本各地へどう広まったのかという視点も重要である。(三輪副委員長)	基本構想における学習分野の一つである「渡来人のもたらした技術・文化」において、それらがどのように受容、変容し、都や国づくりの基礎となったか、また日本各地へ広まったかについて、展示等を通じて学ぶことができるよう計画・設計段階で留意していきます。
	渡来人がもたらしたものにより、国がどのように変わったのかなど、我が国の成り立ちについて学べる場となるとよい。(八丁委員)	
	世界遺産登録への後押しとなるような、国際性の視点を是非盛り込んでほしい。(西藤協力委員)	
	東アジアの人々が来訪し、自らのルーツが飛鳥に保存されていることを知ることができるような内容にしてほしい。(関委員)	
	学習内容が難しすぎるため、子供達が来ても理解できるようなものも必要ではないか。(河上委員)	
	キトラ古墳壁画の公開時もそうであったが、飛鳥を訪れる人は短時間で帰る人が多い。来訪者によって混雑する箇所とそうでない箇所の差が激しいのが実態であると思われる。利用予測に即して使いやすさについて考えるべきである。(加藤協力委員(代理出席：成田研究員))	基本構想における体験的歴史学習のコンセプトである「本物のチカラ」と「遊びのココロ」を踏まえ、本物に触れる機会の提供、エンターテインメントの要素に留意していくこととします。
	プレオープンをして、実際に体験した方から、ご意見をいただき展示に反映できる仕組みを検討すべきではないか。(加藤協力委員(代理出席：成田研究員))	計画時の利用予測を踏まえた動線設定や、設計時の工夫により使いやすさが増す施設としていきます。
	本地区には、専門家も来訪すると思われる、新しい技術と新しい情報の発信がどんどんされるほうがよい。(平野委員長)	基本構想における導入機能に、専門家にとっても一定の満足が得られるよう文化財の研究成果について、必要に応じて提供できるよう展開する旨、盛り込みました。

項目	委員意見	対応方針
	発掘調査現地説明会などには、遠方から宿泊して来訪する方もいるため、こうしたリピーターへの配慮もしてほしい。(西藤協力委員)	基本構想における体験的歴史学習プログラムのとおり、リピーターの方も楽しめるものとしていきます。また、祝戸荘との機能連携も図っていきたいと考えています。
	春と秋だけ多くの方が来訪するという印象が強いため、もう少し年間利用を検討することが必要ではないか。(吉兼委員)	学習内容の幅広さにより、春や秋のみでなく、年間を通じて楽しんでいただけるプログラムを提供するよう、今後の具体内容の検討にあたって配慮していきます。
	体験学習館では、東アジアの壁画の展示とともに、高松塚壁画館にある模写壁画の活用も検討することが可能ではないか。(杉平協力委員)	東アジアの壁画の展示・解説については、文化財部局等と連携しながら、計画・設計段階で内容を精査していきます。特に高松塚古墳との比較展示については、模型・パネル等により行いたいと考えています。
	屋外体験では農地を保存するだけでなく、農具や古代衣装等の再現なども含め農法を保存するという視点に立って、公園内だからできるイベント等を仕掛けていくことも必要ではないか。(吉兼委員)	計画・設計段階で、古代の農法の理解に通じる体験イベントも含め、公園内でできるイベントについて、開園前イベントプログラムでの試行や地元の意見も踏まえて、検討していきます。
	発掘をした上で整備、開園するのではなく、発掘過程自体も公園の中で示せるような工夫を検討してほしい。(猪熊委員)	基本構想における体験的歴史学習のコンセプトにあるような発掘過程を学ぶことができる展開を図るとともに、甘樫丘地区「東麓遺跡」を始めとする飛鳥地方各地での発掘箇所への案内の起点となるよう情報の発信に努めるよう配慮します。
	国営公園の他の4地区や公園外の施設等との関係を分かりやすく説明すべきである。(猪熊委員)	基本構想における体験的歴史学習の展開方向において、既存施設との棲み分け及び連携を考慮して定めていることを記載します。なお、具体的な連携については、今後も留意していきたいと思います。
人材育成及び関係団体との連携について		
	管理や案内には専門的な知識や総合力が必要であり、ボランティアの枠を超えて専門的な職として展開することが必要ではないか。(足立委員)	基本構想においては、管理運営方針の中で、地域の活動団体等やリピーターの管理運営への参画についてイメージを記載することとし、計画・設計段階で、中長期的な展開を含めてさらに具体的な検討を進めていきたいと思います。
	体験的歴史学習を展開するためにはエドゥケーターの育成が肝要である。飛鳥に合ったエドゥケーターの位置づけを検討することが必要である。(三輪副委員長)	
	市民を単にビジターとして捉えるのではなく、担い手・パートナーとして公園あるいは施設の管理に入っていくことが重要であり、この視点を強化することが必要ではないか。(増田委員)	

項目	委員意見	対応方針
	<p>一般の来訪者は飛鳥の歴史のことだけでなく周辺の食べ物などのことも知りたいと思われる。こうしたことへの対応を含め、どういう人材が必要なのかをイメージして検討していくことが必要ではないか。(足立委員)</p>	<p>レストラン、カフェ等飲食物販施設を含めた飛鳥地方全般に関する情報案内は、基本構想における導入施設「体験学習館」や「情報案内施設」等に対応することを想定しています。また、こうした情報案内をできるノウハウを有する関係機関との連携を図っていきたく考えています。</p>
	<p>里地里山体験フィールドなどは開園前から住民とともに活動し、その結果を設計に反映するということが構想や計画の中に盛り込むことが必要ではないか。(増田委員)</p>	<p>基本構想にも位置づけのある開園前イベントプログラムの実施を今後も継続することにより、関係団体や利用者の意見を十分に反映していきます。</p>
	<p>住民参加による景観整備の実例では、「専門知識が無くてよい」と問われることもあるため、ボランティアのハードルを下げ、参加しやすくすることも大切である。(杉平協力委員)</p>	<p>基本構想における管理運営方針を踏まえ、一般のお客さまがリピーターとなり、リピーターが新たに管理運営に参画いただけるような展開を図ることができるように工夫していきます。</p>
	<p>公園が完成する前から連携に向けた体制づくりが必要である。(平野委員長)</p>	<p>基本構想にも位置づけのある開園前イベントプログラムの実施を今後も継続するとともに、管理運営方針を踏まえ、今後の計画・設計を行うこととすように努めていきます。</p>
	<p>これまでの国営公園との関わりを考慮し、飛鳥保存財団を重要視して取り上げてほしい。(関委員)</p>	<p>基本構想における管理運営方針を踏まえ、高松塚壁画館も含めた飛鳥保存財団との連携については今後も留意していきます。</p>
<p>施設の設定・運営管理について</p>		
	<p>体験学習館は色々な機能を持たせるよりも博物館的な機能をメインとしたほうが良いのではないか。(河上委員)</p>	<p>基本構想における必要な機能に、展示・案内及びこれを支えるサポート機能、さらには便益・サービス機能を有する必要がある当該施設は、博物館的機能に特化することはありません。ただし、文化財の保存・管理については、文化財部局との連携により適切に行うこととします。</p>
	<p>現段階で指定管理者制度で対応するかどうかを決めるのは困難であろうが、基本的にはいろいろな調整機関と連携を取りながら実施する仕組みづくりが必要ではないか。(平野委員長)</p>	<p>基本構想における管理運営方針として、各分野のノウハウや人材を持つ多様な主体との連携が必要である旨を述べており、これに沿って今後の展開を進めたいと考えています。</p>
	<p>収益を得て運営し、仕事として村民に提供し地域の活性化につながるようにしないと長続きしないのではないか。(河上委員)</p>	<p>基本構想における体験的歴史学習の目的にあるとおり、地域活性化につながるものとして展開を図りたいと考えており、今後の内容具体化にあたり、引き続きその旨の検討を進めていきます。</p>
	<p>地域産材の積極的利用など、建設・運営に村人が関わることができ、地域活性化につながるよう配慮してほしい。(関委員)</p>	

項目	委員意見	対応方針
その他	<p>「文化観光」が求められているが、全国にモデルがない状況である。飛鳥はモデルになるのにふさわしく、そのように検討してほしい。(三輪副委員長)</p>	<p>基本構想においていただいた多種多様なご意見を今後も反映し、飛鳥の個性を生かした展開を行うことで、文化観光の先駆けとなっていけるよう取り組みたいと思います。</p>